

亜種 オオハクガン Greater Snow Goose

星 子 廉 彰

平成6年3月～5月3日迄 ウトナイ湖を畔の厚真地方の水田地帯、南幌及び長沼地方の水田地帯で稲の落ち穂を食べながら、最後に雪解けの遅い北村、美唄の水田地帯で北帰行前に生活しているマガンの中に、昨年生まれのハクガン1羽、更に大型の一際目立つハクガンが1羽観察出来た。

4月2日、厚真地方の水田で雪解けのため霞が立ち込めている中にマガン5,000羽の中に特に大型のハクガンを発見した時、オオハクガンが遂に渡来したとの確信が沸き上がってくるのを覚えた。

写真、ビデオ、北米のガン、ハクチョウ、カモの専門書を携え5月3日までオオハクガンの特徴を最大限捕らえ追求した結果、更にオオハクガンの鳴き声を録音し記録に残せたのが同定決定の1つのキーポイントになった。

オオハクガンの繁殖地、越冬地以外では、聞かれない独特の鳴き声を記録に残している所はないだろうと最大の労苦に対し報われた事に感謝している。

オオハクガンの同定に対して、ご依頼致しました山階鳥類研究所、茂田良光様には御多忙の中快諾を得まして御検討頂きオオハクガンの同意決定を頂き、更に確認のためイギリスの水禽協会のカール・ミッチェルと、カナダのサイモン・フレイザー大学のエヴァン・クーチカール両氏からも亜種オオハクガンとする事に賛同頂きました。

『北海道のガンを保護する会』の会員の協力、特に長谷川富昭氏にはオオハクガンの決め手になるキーポイントをクローズアップ撮影、鳴き声の録音に協力頂き更に宮島沼でマガンの発信機標識調査のため来道中の『マガンを保護する会』の本州の会員も幸いにオオハクガンを近くで観察出来、再会出来るかどうかの良いチャンスを得た。

BIRD MIGRATION RESEARCH CENTER
YAMASHINA INSTITUTE FOR ORNITHOLOGY
115 TSUTSUMINE, KONOYAMA, ABIKO-CITY
CHIBA, 270-11 JAPAN

星子廉彰 様

この度、貴兄から同定を依頼されました1994年3月30日～5月3日に北海道美唄市宮島沼にて観察され、撮影されたハクガンの写真とビデオについて、検討する事が出来ましたので御返事申し上げます。

御承知の様にハクガンSnow Goose、*Anser caerulescens*には、ハクガンLesser Snow Goose、*Anser caerulescens caerulescens*とオオハクガンGreater Snow Goose、*Anser caerulescens*

*atlanticus*の2亜種がありますが、その形態上の相違点は主に大きさと嘴の形にあります。分布は亜種ハクガンの方が亜種オオハクガンより広く、ロシア共和国のウランゲリ島、チュコト島、アラスカ北部から東はカナダ北東部のバフィン島までに繁殖し、亜種オオハクガンはグリーンランド北西部とバフィン湾北部の島で繁殖します。日本には冬期に亜種ハクガンが渡来し、亜種オオハクガンの記録は従来ありません。

今回、宮島沼において撮影されたハクガンが、同時に移されたマガンWhite-fronted Goose、*Anser albifrons frontalis*より大きい事は一見して明らかです。日本で冬期に観察されるハクガンは亜種ハクガンで、この亜種はマガンと比較して同大かむしろ小さく見えるのが普通です。一方、亜種オオハクガンはマガンのどの亜種よりも平均上、大きい事が知られています。

亜種ハクガンの翼長(単位mm)は、雄：385-460、平均430.6(N=68)、雌：382-450、平均418.5(N=59)；亜種オオハクガンは、雄：430-485、平均459.9(N=43)、雌：425-475、平均448.0(N=33)です。嘴峰長(単位mm)では亜種ハクガンは、雄：51-62、平均57.9(N=68)、雌：50-61、平均55.7(N=56)；亜種オオハクガンは、雄：59-73、平均66.2(N=43)、雌：57-71、平均63.8(N=33)です。これらの測定値の重複はわずかであり、両亜種の識別は大きさが比較出来れば可能です。嘴は亜種ハクガンより、亜種オオハクガンの方が太く長く、亜種オオハクガンでは上嘴と下嘴の会合線の部分がより大きく開いています。また、鳴き声は亜種ハクガンに比べ、亜種オオハクガンの方がやや低く太い事が知られています。

宮島沼において撮影されたハクガンは、上記のハクガンの両亜種に関する大きさと嘴の形の特徴からも、さらに録音された鳴き声からも亜種オオハクガンであると考えられます。亜種オオハクガンは本来、北アメリカの大西洋岸で越冬しますが、イギリスとヨーロッパからも迷鳥としてすでに記録があり、日本からの記録も十分考えられます。以上により、星子氏が撮影されたハクガンは、亜種オオハクガンであると確信します。

1994年9月30日

茂田 良光

THE WILDFOWL & WETLANDS TRUST

FAX MESSAGE

FROM : CARL MITCHELL

FAX : +44.(0).453.890.827

TO : Tetsuo Shimada.

FAX : 010.81.228.33.22.17

The Miyagi Prefectural Izunuma-Uchinuma

Environmental Foundation

17-2 Shikim, Aza-Kamihatoaka

Wakayanagi-cho, Kurihara-gun, Miyagi989-55, Japan

DATE : 2August 1994

SUBJECT:

Snow Goose Photographs

MESSAGE

Dear Tetsuya Shimada

Thank you for your recent photographs and letter concerning a Snow Goose seen near lake Miyajima.

The difference between the nominate race *Anser c.caerulescens* (Lesser Snow Goose) and *Anser caerulescens atlanticus* (Greater Snow Goose) is based largely on size, especially of the bill. Lesser are typically lighter (2.3-3.1kg) and have a smaller bill (52-60mm long), Greater are typically heavier (2.7-3.5kg) and have a heavier bill (60-70mm long). The degree of overlap is slight and these characters allow separation of most individuals. The 'grinning patch' - the dark area on the side of the bill - is relatively larger in the Greater.

The general appearance of this bird is that of Greater Snow Goose. When comparing the bird with geese close by the bird is larger than whitefronts, the head shape appears to be Greater and the bill a nice large size. Whitefronts are generally 2.1-2.5kg and thus the photograph showing three whitefronts and the snow goose on water indicates the snow goose to be a much bigger bird than the whitefronts. On this evidence alone it would indicate Greater. Although the legs look grey in two of your photographs they appear pink in another.

Greater Snow Geese breed on north-east Canadian islands, staging through the St Lawrence River and usually winter on the eastern Atlantic US states (e.g. Maryland). The whitefronts seen with this individual are presumably from the eastern Siberian flocks that regularly winter in China and Japan. So it seems that this Snow goose is in fact a vagrant and has crossed the North Pacific travelling west, rather than the normal route south east.

Page 2 to follow:

We have problems in our collection of captive Snow geese here at Slimbridge because there has been some hybridisation in the past and there is considerable overlap in sizes.

However, my own opinion of this bird is that it is a Greater Snow Goose *Anser Caerulescens atlanticus* although you would do no harm in contacting a snow goose expert in North America for further verification.

You could try: Dr Evan Cooch, Dept of Biological Sciences, Simon Fraser University, Burnaby, B.C. Canada, V5A 1S6.

Please let me know if you would like the photographs returned to you, or if any of the above message is unreadable.

Yours sincerely



Carl Mitchell

If any of the message is un-readable then please call +44.(0).453.890.333

Also sent by Mail YES ⊗ NO ○

Carl Mitchell, WWT, Slimbridge, Gloucester, GL2 7BT, U.K.

SIMON FRASER UNIVERSITY

DEPARTMENT OF BIOLOGICAL SCIENCES

BURNABY, BRITISH COLUMBIA V5A 1S 6

Telephone:(604)291-4475 Telex:04-354614

Fax:(604)291-3496

August 19, 1994

Tetsuo Shimada

The Miyagi Prefectural Izunuma-Uchinuma Environmental Foundation

17-2 Shikimi, Aza-Kamihataoka

Wakayanagi-cho, Kurihara-gun,

Miyagi 898-55

Japan

Dear Mr.Shimada,

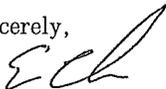
Thank you for your very nice letter of 15 August, concerning the species identification of the snow goose in the photographs you sent.

Based on your description of the call, and the relative size of the snow goose compared to the white-fronted geese in the picture, I suspect you are indeed correct in assuming that the snow goose is *Anser c.atlanticus*, although(as you probably know), the occurrence of a Greater Snow Goose that far West would be extremely rare.

Unfortunately, without measurements of the size and body weight, the designation as a Greater Snow Goose cannot be absolute, but I believe you are probably correct.

I enclose information concerning the upcoming 8th North American Arctic Goose Meeting & Workshop, scheduled for January 1995, in New Mexico, USA. At the last meeting, in California in 1992, we had several Japanese scientists present, and we hope to have similar participation in New Mexico in 1995.

Sincerely,



Evan Cooch

Department of Biological Sciences

E.mail:cooch@fraser.sfu.ca

Voice:(604)291-5611

FAX:(604)291-3496

オオハクガンの日本初渡来。

3月30日、厚真方面に友人がハクガンを探しに出掛け早朝5時から水田一帯を隈なく探し、遂にハクガンを近距離から記録に残してきた。

4月2日、星子、谷口2人でハクガン探しに5度目の早朝探鳥、遠浅、厚真、弁天沼と水田地帯を350km探し求めた。

午前11時水田の中央500m位の所でマガン5,000羽の中に1羽のハクガンを遂に発見。

しかし今まで観察してきた見慣れたハクガンの姿ではなかった。発見と同時に日本に渡来した事のないオオハクガンであるとの驚きと絶対間違いないとの確信が湧き出てきた。

家に急ぎ戻りビデオテープを繰り返し見る。更に大急ぎでプリントの出来あがった写真をみくらべ、外国の専門書を特に観察のポイントの部分を取り出し3者を何回もつきあわせ、結果としては疑う余地のないオオハクガンであり、極めて珍しい初めての珍客であるとの結論を生み出した。

幸いな事に更に1名の観察者が、ビデオカメラ、スチールカメラに記録を残しているのも更に詳しく検討をし、正確な日本初のオオハクガン渡来記録としたい。

1994年4月4日



7月12日朝「062C」のカップルは2羽の雛を連れ巣から離れていった。

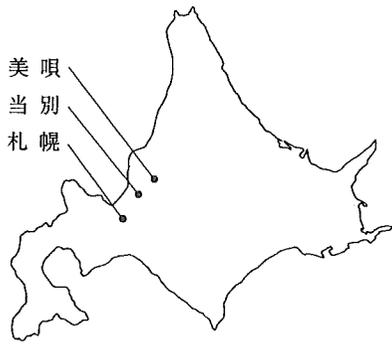
年次別渡来種

種 類	昭和・平成															種 類	昭和・平成				
	シジユウカラガン	ヒメシジユウカラガン	コクガン	ハイイロガン	マガン	カリガネ	ヒシクイ	オオヒシクイ	ヒメヒシクイ	ハクガン 49年○	ナキハクチヨウ	オオハクチヨウ	コハクチヨウ	アメリカコハクチヨウ	サカツラガン			マガン標識	シジユウカラガン標識	オオハクガン	コブハクチヨウ
50	○				○							○	○								50
51	○		○		○	○						○	○								51
52	○				○		○					○	○								52
53	○				○	○	○					○	○								53
54	○			○	○	○	○	○				○	○								54
55	○	○			○	○	○	○	○			○	○								55
56	○				○		○	○				○	○						○		56
57	○			○	○		○	○		○		○	○								57
58	○				○		○	○		○		○	○								58
59	○				○	○	○	○	○			○	○								59
60	○				○	○	○	○				○	○			○					60
61			○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	○					61
62			○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○				62
63	○			○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○				63
元年		○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○			○		元年
2	○				○	○	○	○				○	○	○		○					2
3	○		○		○	○	○	○	○			○	○	○		○	○				3
4	○			○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○				4
5	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		5
6	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○			6

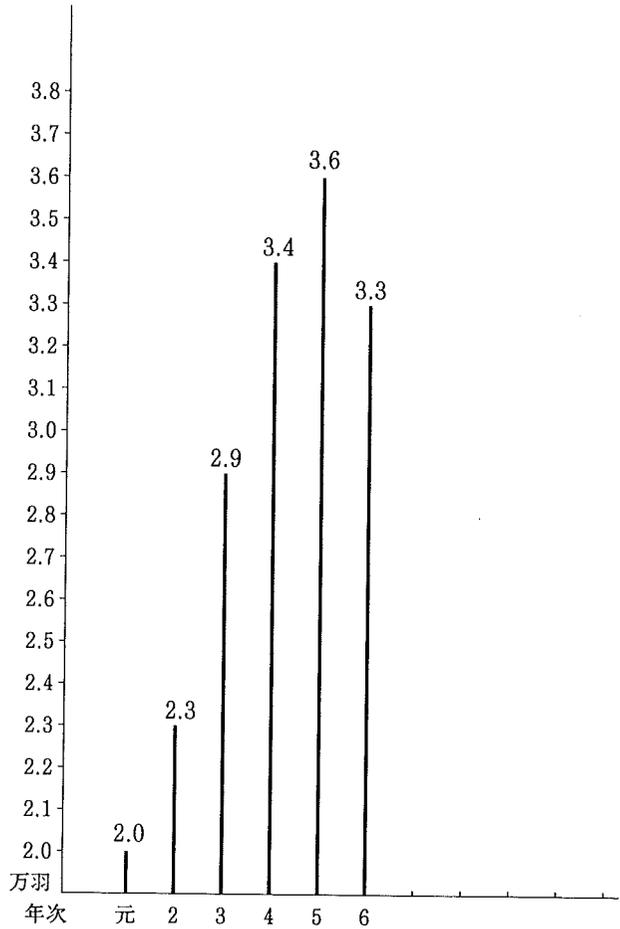
マガン、オオヒシクイ、シジュウカラガン等 渡来数 平成6年 春季

3. 9	袋地沼	オオヒシクイ	2	4. 5	声間大沼	オオヒシクイ	1
18	〃	〃	97	〃	〃	マガン	1
19	植 苗	ハイイロガン	1	9	上美唄	〃	100
〃	〃	マガン	8,000	〃	新篠津	〃	1,000
21	北 村	〃	20	〃	〃	オオヒシクイ	10
〃	新 沼	〃	1,120	10	南 幌	マガン	500
〃	〃	オオヒシクイ	710	〃	〃	大型ハクガン	1
〃	袋地沼	〃	660	11	北 村	マガン	200
〃	奈井江	〃	70	〃	〃	ハクガン当オ	別個体1
〃	西美唄	マガン	1,200	12	〃	マガン	5,000
23	植 苗	〃	10,000	〃	新篠津	〃	500
〃	〃	シジュウカラガン	2	〃	当 別	〃	100
〃	厚 真	マガン	15,000	14	北 村	〃	1,000
24	袋地沼	オオヒシクイ	100	〃	長 沼	大型ハクガン	1
25	月 形	マガン	100	〃	〃	オオヒシクイ	10
〃	北 村	〃	700	16	北 村	マガン	2,000
〃	袋地沼	オオヒシクイ	417	〃	茶志内	オオヒシクイ	3,000
〃	新 沼	マガン	3,780	〃	袋地沼	マガン	1,000
28	〃	オオヒシクイ	200	〃	〃	オオヒシクイ	100
〃	〃	マガン	100	17	宮島沼	大型ハクガン	1
〃	袋地沼	オオヒシクイ	1,000	20	美 唄	マガン	5,000
30	浜厚真	マガン	500	21	声間大沼	サカツラガン	1
〃	〃	大型ハクガン	1	23	月 形	マガン	10,000
31	〃	マガン	10,000	〃	宮島沼	数える会マガン	32,000
4. 1	新 沼	オオヒシクイ	200	5. 1	〃	マガン	33,000
〃	西美唄	マガン	4,000	3	〃	4時26,000 北帰	
2	浜厚真	〃	5,000	*No.2 5月13日まで残る。発信時間、神経異常。			
〃	〃	大型ハクガン	1	*オオハクガン観察 3月30日～5月3日			
5	声間沼	ハクガン当オ	1	茨戸、石狩川、マガン7羽5月12日～17日			

マガン年次別飛来数



美唄市位置図



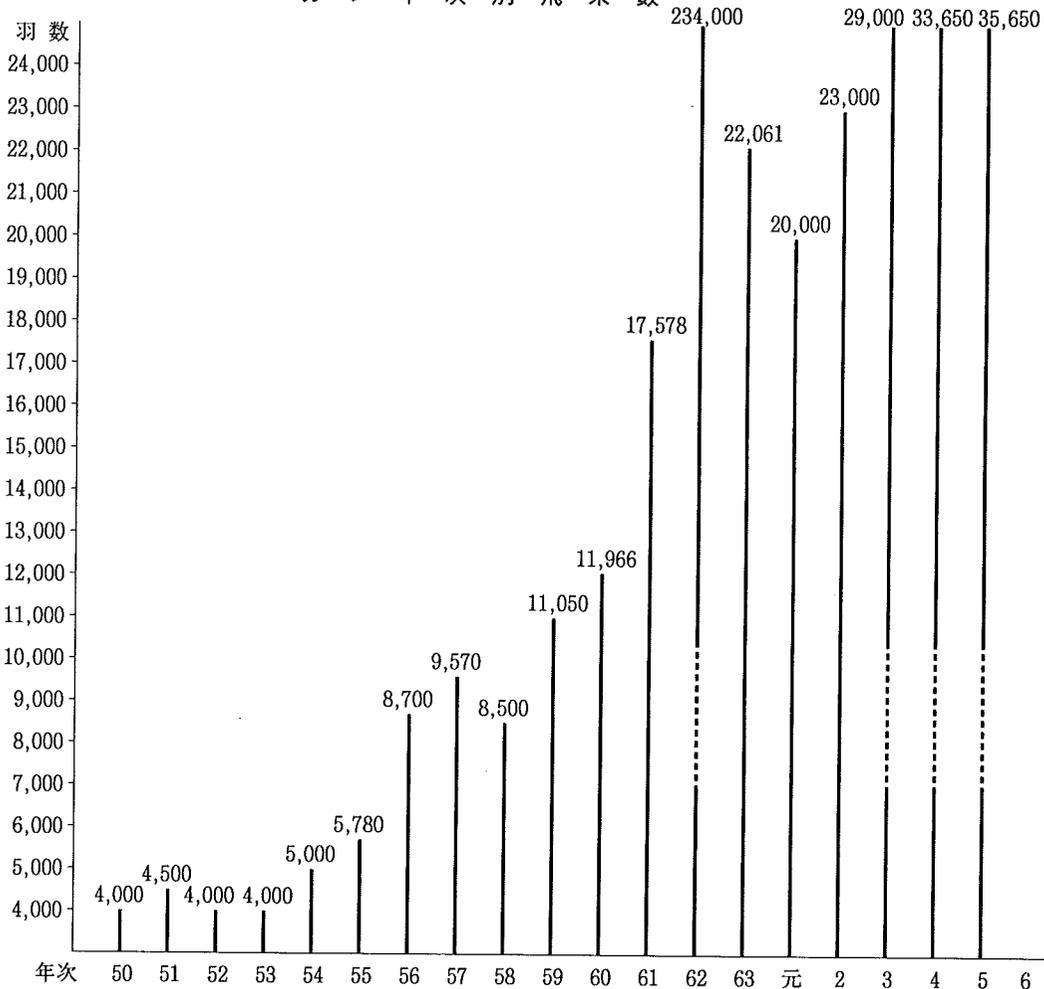
ハクチョウ年次別最高飛来地域

6	コハクチョウ	21,000	美唄	オオハクチョウ	160	美唄
5	〃	14,000	浦白	〃	600	袋地沼
4	〃	8,000	月形	〃	400	新沼
3	〃	6,010	宮島沼	〃	1,000	宮島沼
2	〃	5,650	袋地沼	〃	400	新沼
平成元年	〃	3,000	奈井江	〃	200	宮島沼

年次別渡来種 (西美唄)

種 類	昭和・平成														種 類	昭和・平成					
	シジユウカラガン	ヒメシジユウカラガン	コクガン	ハイイロガン	マガン	カリガネ	ヒシクイ	オオヒシクイ	ヒメヒシクイ	ハクガン	ナキハクチョウ	オオハクチョウ	コハクチョウ	アメリカコハクチョウ			サカツラガン	マガン標識	シジユウカラガン標識	マガン白化	コブハクチョウ
50	○				○							○	○								50
51	○		○		○	○						○	○								51
52	○				○		○					○	○								52
53	○				○	○	○					○	○								53
54	○			○	○	○	○	○				○	○								54
55	○	○			○	○	○	○	○			○	○								55
56	○				○		○	○				○	○							○	56
57	○			○	○		○	○		○		○	○								57
58	○				○		○	○		○		○	○								58
59	○				○	○	○	○	○			○	○								59
60	○				○	○	○	○				○	○			○					60
61			○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	○			○		61
62			○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○			62
63	○			○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○				63
元年		○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○				○	元年
2	○				○	○	○	○				○	○	○		○					2
3	○		○		○	○	○	○	○			○	○	○		○	○				3
4	○				○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○				4
5	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○				○	5

マガン年次別飛来数



ハクチョウ年次別飛来数

最高地域 (1日1地域)



美幌市位置図

年次	コハクチョウ		オオハクチョウ	
1995年	コハクチョウ		オオハクチョウ	
1994年	〃		〃	
1993年	〃	14000 浦白	〃	600 袋地沼
92年	〃	8000 月形	〃	400 浦白町、新沼
91年	〃	6010 宮島沼	〃	1000 宮島沼
90年	〃	5650	〃	400
89年	〃	3000	〃	200
88年	〃	538	〃	106
87年	〃	808	〃	100

平成5年度 ガン、ハクチョウ渡来数

月日	種類	場所	羽数	月日	種類	場所	羽数	備考
3/2	オオハクチョウ	袋地沼	4	3/23	オオヒシクイ	新沼	1,500	
3	マガン	新沼	5,000	〃	コハクチョウ	〃	420	
5	〃	宮島沼	50+	〃	マガン	〃	1,000	
7	オオハクチョウ	〃	2	〃	オオハクチョウ	〃	150	
〃	オオヒシクイ	袋地沼	27	標識 (オオヒシクイ) R65, 77, 50, 60, 00, 74, v15, 2y1, p22, 32, 78, 76, p83, 32, 3y5, J26, 81, 19, 12, 34, M27, 14, 91, 24, M68, T13, F1K (マガン)				
21	〃	〃	300	25	マガン	中村	93	
〃	オオハクチョウ	〃	100	〃	コハクチョウ	〃	700	
〃	コハクチョウ	〃	100	〃	〃	茶志内	2,150	
標識 (オオヒシクイ) p19, 65, 54, R63, 65, T13, 28,				〃	オオヒシクイ	新沼	100	*シロハヤブサ
21	マガン	宮島沼	3,000±	標識 03, j04, j79, R22, 60, M41, P29, 21, 91, R37, M28, F1K, E1A (マガン)				
〃	オオハクチョウ	〃	200	25	コハクチョウ	袋地沼	2,100	標識
〃	シジュウカラガン	〃	1	〃	オオヒシクイ	〃	500	J06, M97, 91
〃	ヒメシジュウカラガン	〃	1	〃	マガン	〃	700	P50
〃	オオヒシクイ	新沼	3,000±	〃	オオハクチョウ	〃	600	
〃	マガン	〃	1,000±	27	マガン	ススキ	13,000	H1Z, F1J
〃	コハクチョウ	〃	100	〃	コハクチョウ	〃	5,000	標識、 首環037Y
標識 p53, 50, 64, 79, 76, 74, 83, p94, 96, j94				右足緑 037Y, 左足 0037				
21	オオヒシクイ	袋地沼	300	〃	コハクチョウ	中村	2,000	
〃	オオハクチョウ	〃	100	28	〃	〃	1,000	
〃	コハクチョウ	〃	100	〃	〃	袋地沼	2,000	
標識 p19, 65, 54, R63, 65, T13, 28				〃	〃	奈井江	1,000	
22	コハクチョウ	新沼	800	〃	オオハクチョウ	西美唄	200	
〃	オオヒシクイ	〃	2,400	〃	〃	袋地沼	200	
〃	オオハクチョウ	〃	20	標識 R09, 22, P11, 54, 76, j81, 0y6				
23	マガン	宮島沼	200					
〃	オオヒシクイ	〃	100					
〃	オオハクチョウ	〃	100					

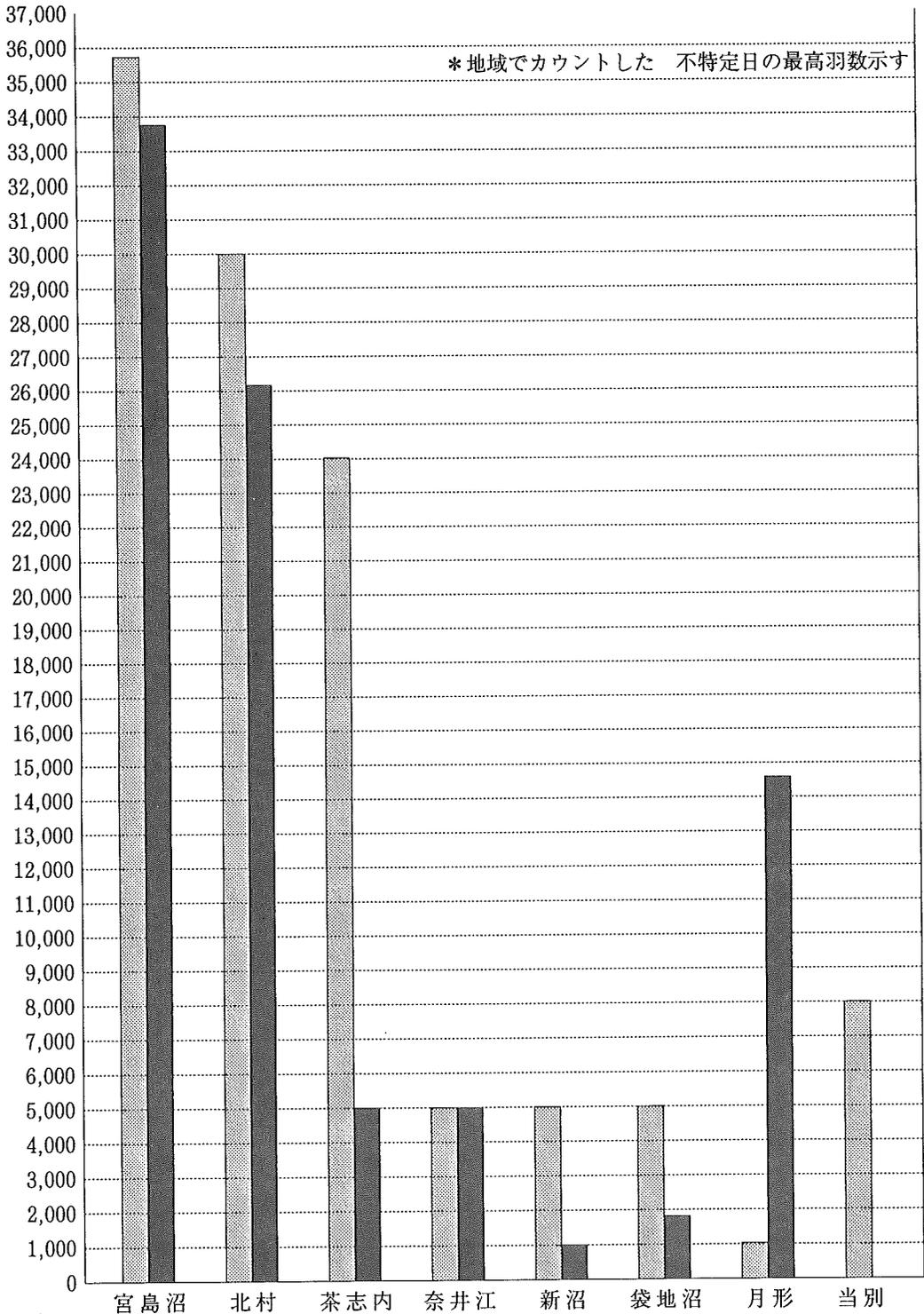
月日	種類	場所	羽数	月日	種類	場所	羽数	備考	
3/30	オオヒシクイ	三軒沼	1,170	4/4	マガン	茶志内	4,000	J02, 14. 氷、融ける 氷、完全融解	
〃	マガン	〃	300	〃	オオヒシクイ	〃	3,000		
〃	コハクチョウ	〃	4,500	〃	コハクチョウ	上美唄	1,200		
〃	オオヒシクイ	奈井江	900	〃	マガン	〃	500		
〃	コハクチョウ	〃	5,815	〃	〃	手形沼	2,000		
〃	マガン	〃	5,310	〃	オオヒシクイ	〃	200		
標識 (オオヒシクイ) J16, 10, 32, R96, 95, M87, P78, R74				5	〃	宮島沼	〃		〃
30	オオハクチョウ	袋地沼	300	6	オオハクチョウ	〃	100		〃
〃	コハクチョウ	〃	3,000	〃	コブハクチョウ	〃	1		〃
〃	〃	中村	900	〃	マガン	茶志内	5,000		FIK
〃	マガン	〃	2,100	〃	カリガネ	〃	1	〃	
〃	〃	ススキ	2,600	7	コハクチョウ	袋地沼	1,000	〃	
4/2	〃	奈井江	24,000	〃	マガン	〃	100	〃	
〃	コハクチョウ	〃	6,000	〃	オオヒシクイ	〃	2,000	〃	
〃	オオヒシクイ	〃	500	標識 J94, 87, 68, 70, 42, 06, P11, 21, 53, T13, M87, 98, M16, 14, 44, R96, 70, 30, オレンジun2				〃	
標識 P29, J70, M28 **マガン1羽シロハヤブサ食害。				7	コハクチョウ	浦白	1,400	〃	
幼ハイイロガン	〃	〃	1	〃	オオハクチョウ	〃	100	〃	
3	コハクチョウ	袋地沼	5,000	〃	オオヒシクイ	〃	200	〃	
〃	マガン	〃	5,000	〃	マガン	宮島沼	30,000±	〃	
〃	〃	奈井江	2,000	〃	オオハクチョウ	〃	300	〃	
〃	オオヒシクイ	〃	1,000	〃	コハクチョウ	〃	500	〃	
〃	コハクチョウ	〃	3,000	8	宮島沼 AM 4:30着く、ガスで6:30マガン水田 9:30水田より沼に入る。13時水田		〃	〃	
〃	〃	中村	3,000	〃	マガン	茶志内	500	コハク成鳥	
〃	マガン	〃	10,000	〃	オオヒシクイ	〃	100	下顎裂ける	
				〃	オオハクチョウ	〃	20**	オオハク幼鳥	
				〃	コハクチョウ	〃	10	釣り糸口より	

月 日	種 類	場 所	羽 数	月 日	種 類	場 所	羽 数	備 考
4 / 9	オオハクチョウ	茶志内	200	4 / 14	コハクチョウ	月ガ湖	7,000±	037Y、首曲1
〃	コハクチョウ	〃	200	〃	マ ガ ン	当別本	6,000±	標識3
〃	オオヒシクイ	〃	200	15	コハクチョウ	月ガ湖	6,000±	アメコ F1、20
〃	マ ガ ン	〃	50	〃	*ナキハクチョウ	〃	1羽	(小沼)
〃	コハクチョウ成鳥1羽	下顎裂けて		〃	オオハクチョウ	〃	200±、コハク100	北上
		いるのが死亡。		〃	マ ガ ン	宮島沼	20,000±	F1U, H1Z, F1p, H1R
10	ハク チ ョ ウ	宮島沼	1,300	〃	オオハクチョウ	〃	400±	
〃	マ ガ ン	水田F1K, E1P, F1Z		16	コハクチョウ	月ガ湖	1,000±	AM 5:30より 北
〃	オオヒシクイ	袋地沼	400	〃	アメリカコハクチョウ	〃	5* 037Y	残っている
	標識	M91, J48, p65, j25, オレンジ2		〃	コハクチョウ	〃	100	小沼に残っている
10	オオハクチョウ	袋地沼	80	17	オオハクチョウ	宮島沼	400	
〃	コハクチョウ	新 沼	2,800	〃	小型ヒシクイ	〃	1	
〃	アメリカコハクチョウ	〃	4	〃	マ ガ ン	〃	20,000±	
〃	ナキハクチョウ	〃	1	〃	カ リ ガ ネ	〃	1	
〃	オオヒシクイ	〃	1,030	18	マ ガ ン	〃	AM 5:30	水田に出発
	標識	P 74, 79, J16		〃	ハイロガン幼鳥	北 村	1	
10	コハクチョウ	当 別	1,000,103Y	〃	マ ガ ン	美唄北村水田、点在		
11	マガン	宮島沼	30,000±、死体1 (羽狐)	〃	オオハクチョウ	月ガ湖	50	
12	〃	当別	7,140 H1E 8.45	〃	コハクチョウ	〃	200±	
〃	コハクチョウ	当 別	6,420	19	〃	当別川	300	役場林務同行
〃	オオハクチョウ	〃	100	20	オオハクチョウ	月ガ湖	600	
〃	〃	茶志内	20、釣り糸	〃	コハクチョウ	〃	50	
13	〃	月ガ湖	50	〃	小型ヒシクイ	宮島沼	1	
〃	アメリカコハクチョウ	〃	標準20±	〃	ヒメシジュウカラガン	〃	1	羽田、泉、
〃	コハクチョウ	〃	6,000	〃	マ ガ ン	宮島沼	20,000±	
	標識	037Y, 103Y		〃	オオハクチョウ	〃	100±	
13	コハクチョウ	当 別	2,000					
〃	〃	釣り糸1羽。						
〃	マ ガ ン	当 別	2,000 H1Z他					

月 日	種 類	場 所	羽 数	月 日	種 類	場 所	羽 数	備 考
4/20	マ ガ ン	茶志内	50	30	オオハクチョウ	宮島沼	10	1羽 狐食害
〃	オオハクチョウ	新 沼	50	5/1	〃	親子沼	3	
〃	〃	月ガ湖	600	〃	オオヒシクイ	〃	3	
〃	コハクチョウ	〃	50	〃	オオハクチョウ	宮島沼	1	保護
21	マ ガ ン	宮島沼	33,460	〃	マ ガ ン	〃	10,000±	13:00
〃	オオハクチョウ	〃	100	2	〃	〃	2,500	
〃	〃	親子沼	70	〃	オオハクチョウ	〃	1	保護のが死亡
〃	オオヒシクイ	〃	3	4	マ ガ ン	〃	500	
〃	オオハクチョウ	月ガ湖	50	〃	オオハクチョウ	〃	5	○目→キタキツネの目の色同様兄弟2羽連
〃	コハクチョウ	〃	10					○1羽鉛中毒近く保護可能かもしれませんが
24	〃	〃	4					○5月2日オオハクチョウ1羽死亡
〃	オオハクチョウ	〃	24					
*〃	マ ガ ン	宮島沼	35,650					
26	宮島沼シジュウカラガン、ヒメシジュウカラガン、カリガネ、ハイイロガン、オオハクチョウ100							
	(保護1) 標識02Y, 緑6羽、保護オオハクチョウ死亡鉛散弾6個有							
29	マ ガ ン	宮島沼	29,000±	10	オオハクチョウ		4羽	
〃	ヒメシジュウカラガン	〃	1					
〃	アメリカコハクチョウ	〃	1					
〃	オオハクチョウ	〃	20					
〃	コハクチョウ	〃	1					
	*鉛中毒症5±>北帰前兆 有り							
29	小型ヒシクイ	〃	3					
〃	ダ イ サ ギ	〃	1					
				4/13	ナキハクチョウ	赤石堤	5:45	北帰
				4/17	アメリカコハクチョウ	13羽 新堤	6:30	
				5/2	マガン、4群	約1,000	AM 8:30	
				●	クッチャロ湖北上	松井白鳥会長より		

マガン採餌地域分布

93年  92年 



93年、92年春季オオヒシクイ、コハクチョウ、オオハクチョウ採餌地域分布

